

「あなたは、だあれ？」

母の記憶から私が消えていく  
いきなりだった

「あなたは、だあれ？」

振り向いて母を見た

にこにこ笑顔で私に訊いていた

娘ですよ

だれの？

お母さんの

私の答えに困った顔の母

どこのお母さん？

それでも時々は思い出し

名前を呼んでくれる

けれどいつも違う名前

よし子さん あき子さん

私はよし子さん あき子さんになって

母の娘になる

一人娘がいつの間にか三姉妹に  
にぎやかになったね  
お母さん

「それは 何の歌？」

お母さんが私に歌ってくれた

歌ですよ

聞いたことないけど

いい歌ね

母の記憶から私が消えていく

母の記憶から私が消えても

私の記憶には

まだまだ母との思い出が

綴られている